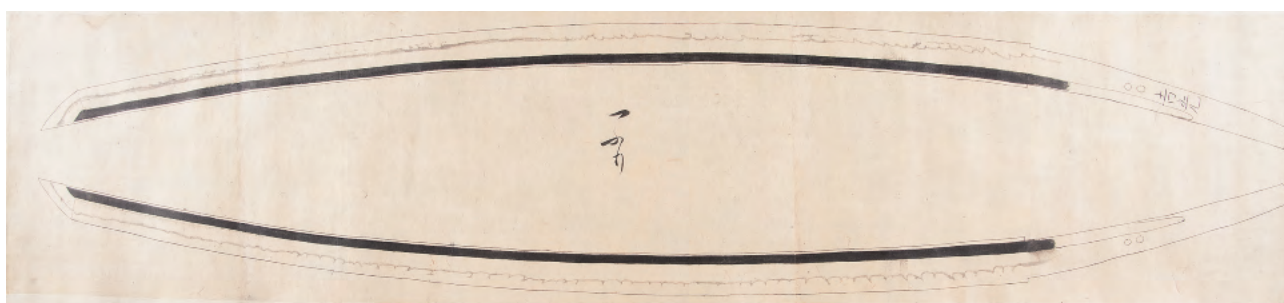


特別陳列 名刀と刀絵図【古美術】



重要美術品《刀絵図》本阿弥光徳 から「一ふり（太刀 銘 吉光）」
ー「名刀と刀絵図」よりー

■ 武の装いⅡ【前田育徳会尊經閣文庫分館】

■ 四季の移ろいⅢ【近現代工芸】

■ 優品選【近現代絵画・彫刻】

- 展覧会回顧 陰翳のなかの金彩
- 令和4年度の新収蔵品
- 美術館にVRシアターがオープン！
- 7月の企画展示室
- 夏の予定は美術館！
- 7月の行事予定
- 学芸室の人々
- アラカルト ただいま展示中

古美術(第2展示室)

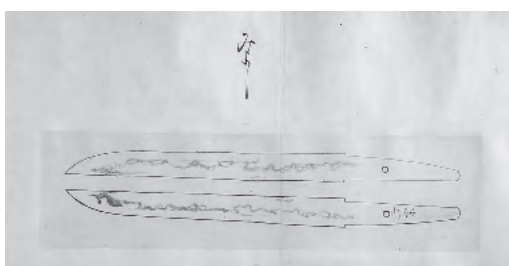
特別陳列 名刀と刀絵図

7月1日(土)～7月23日(日) 会期中無休

学芸員の眼

重文《短刀 銘 正宗(名物 不動正宗)》(徳川美術館蔵)が、初めて手にした真正の正宗でした。本作は、徳川家康が加賀藩祖・前田利家に贈り、その後、利家嫡男の利長の遺品として、加賀藩三代藩主・前田利常が家康に献上したと伝わることから、二〇〇二年の「利家とまつ 加賀百万石物語」展にご出品いただきました。

以後、正宗作とされる刀剣をいくつか扱っていただきましたが、作行に幅があることだけは理解できました。そしてこのような経験を通して、《刀絵図》がどのように活用されたかも推測することができました。近年は、刀剣に対する全国的な関心の高まりから、歴史的な名刀が実見できる機会も増えました。こうした状況を受けて、当館の所蔵品をどのように紹介してゆくか、考察を重ねたいと思います。



重要美術品《刀絵図》から「みよし(短刀 銘 正宗)」

今回は、重文《太刀 銘 備前国長船住長光》(長光作・白山比咩神社蔵)をはじめ、県文《刀 銘 越中守藤原高平(花押)》(初代 辻村兼若作)、県文《刀 銘 賀州住兼若》(三代 辻村兼若作)のほか、館蔵品の中から近年公開されなかった刀剣を新たな考察を加えて展示します。また、豊臣秀吉の蔵刀を、当時の姿で収録している貴重な史料として評価が高い重美《刀絵図》(本阿弥光徳作)は、前半部を中心に展示します。

当館は、正宗や郷義弘作とされる短刀を所蔵しています。これらは、江戸時代十八世紀初期の鑑定に基づくものですが、国宝《刀 無銘 正宗(名物 太郎作 正宗)》、国宝《刀 無銘 義弘(名物 富田郷)》(いずれも前田育徳会蔵)など、近年の当館における歴史的名刀の

展示実績に照らして、作者の評価について新たな考察を加える必要が生じました。

これは、歴史的評価を再検証する作業となりますが、まず、正宗や郷義弘が活躍した鎌倉時代末から南北朝時代の十四世紀そのままの姿であるかという観点から考察してみました。その結果、室町時代頃に手が加えられた可能性が浮上しました。しかし、その範囲については、今後時間をかけて入念に検討しなければなりません。

したがって今回は、あえて作者を明記せずに展示します。しかしそう遠くない将来に、近年の新たな知見に基づく、令和の時代の評価がなされるものと確信します。



石川県指定文化財《刀 銘 越中藤原高平(花押)》初代辻村兼若

近現代工芸(第5展示室)

四季の移ろいⅢ

7月1日(土)～7月23日(日) 会期中無休

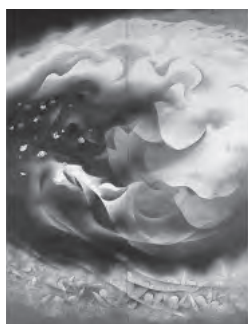
気温が上がってきて暑く感じているであろう七月、入口から波の動きを感じる作品が始まります。魚がはねて生み出された波しぶき、魚から静かに流れや深みを感じる作品、山から流れ出ていく川波。やがて流れは海へと向かい、海に関わる作品へ。静かな

今年度コレクション第5展示室では四季の移ろいⅠ～Ⅳと題して、共通としたタイトルから、さまざまな切り口での展示をお届けしています。Ⅲでは「波海空雲月」をテーマに、見渡せば広がる海、印象に残る波、見上げれば広がる空、印象に残る雲・月など、夏の風景から徐々に流れ出る美しさを、それぞれに作者が昇華してまとめ上げた作品の数々をお届けします。

海、深い海、陽に光る海へ。そして空。見上げると雲、夕焼け、月、静かな夜へと移り変わる風景が展示室で流れていきます。

第八回改組日展の特選受賞作品、豪快な波しぶきを、鮮やかなブルーとピンクの濃淡で明るく幻想的に染め上げた二曲一隻の屏風、原峯水《波に咲く》(染織)や、ウサギたちが自在に跳ね回る背景に波と月が表現されている中野孝一《波兎時絵小筆筒》(漆工)、齋藤悦子の《月の光に》《日の光に》(人形)、平成元・二年と改組日展で発表された対照的な作品を二点並べて展示します。

皆様のお気に入りは見つかりますでしょうか。どうかごゆっくりとご覧いただきたく思います。



原峯水《波に咲く》

前田育徳会尊經閣文庫分館

武の装いⅡ

7月1日(土)～7月23日(日) 会期中無休

陣羽織は、甲冑の上に羽織るもので、動きやすいように袖はなく、斬新なデザインと鮮やかな色彩が特徴です。五代綱紀の陣羽織として、六月二十五日までは猪目文という、ハート型のような模様の陣羽織を展示しましたが、七月一日からは月に波文の陣羽織を紹介します。綱紀は、四代光高の嫡男で、わずか三歳で家督を嗣ぎました。後見は三代利常、万治元年には保科正之の女摩須を室に迎え、いわば大名として申し分のない環境の中、藩政にあたります。藩政改革・十村整備を行ったほか、文化大名として、文書典籍の収集や産業としての工芸の育成にあたりました。七月一日からは、綱紀所用の錠羽形甲冑も展示します。

六代吉徳は、大槻伝蔵を重用し、藩政改革に取り組

みました。自身、甲冑製作にあたっては、昔の甲冑を参照し、利用できないか検討したようです。胴・兜・籠手・脛当・佩楯など、細かく仕様を定め、金工師の雲海壽尚につくらせたという記録が残っています。

十一代治脩は、吉徳の十男で、幼くして仏門に入りますが、藩主を嗣いだ兄たちの逝去が続いたことから、還俗して藩主となりました。治脩所用の唐冠形甲冑を紹介します。

最後の藩主は、十四代慶寧です。甲冑と陣羽織を紹介します。陣羽織は、八卦文が入っています。自然万物の変化を八つの卦で捉えようとするもので、現代ではあまりなじみがありませんが、当時の人々はこれらを意識して生活していたことがうかがえます。



《丸龍に八卦文陣羽織》

陰翳のなかの金彩

会期 4月23日(日)～5月28日(日)

本展覧会は、金沢の金箔製造はどのように始まったのかという展示からスタートし、現在も伝統的な技法で作られ続けている縁付金箔えんつけの紹介、さらには金箔に限らず、金銀彩を用いた工芸の数々をご覧いただきました。そして今回新たな試みとして、あえて照明を抑えた「陰翳コーナー」を設置し、暗がりのなかに浮かびあがる金彩の美しさを味わっていただきました。普段より暗い展示室で、「よく見えない」というお声をたくさんいただくのではないかと心配しておりましたが、おおむね肯定的に評価していただき、胸を撫でおろしています。

美術館では通常、作品をくまなく明るく照らして展示しています。しかし今回、照明を抑えたことで新

たな作品の魅力が感じられました。各素材の質感はより違いがはつきりするように感じられましたし、わずかな光を反射して底光りする美しさは、今まで気が付きませんでした。そんな発見ができ、担当者としても学ぶことの多い展示でした。

一方、課題も多く残りました。製箔の歴史については、その始まりから幕末まではご紹介できましたが、近代において明治維新や不況、戦争をどのように乗り越えていったのか、そしてなぜ金沢の製箔が99%以上という圧倒的なシェアを獲得するに至ったのかという点については、及びませんでした。これらの点については、調査を継続し、いずれまた何らかの形でご報告できればと思っています。



陰翳コーナー（第8展示室）

優品選

7月1日(土)～7月23日(日) 会期中無休

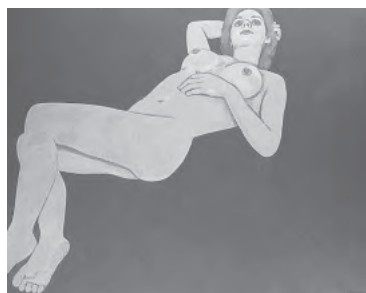
暑さが強まる季節になりました。

日本画分野からは、昨年度新収蔵となりました坂根克介《不動明王二童子像》を紹介します。「コロナ禍」の世相を反映し、作者の感染症沈黙化の願いが込められています。かねてより人物を正面から捉えた構図で絵作りをしてきた作者にとって、本作のような威容を表す仏画は、格好のモチーフといえそうです。

油彩画分野では、色彩が印象的な作品を展示します。東典男《クリムソン色の上に》は、鮮やかなクリムソンの背景に横たわる裸婦を描きます。クリムソンとは紫がかった濃く明るい赤色のこと。輪郭にも同色を用いて画面に統一感を持たせ、髪の色をアークセントにしました。作家がなぜその色を選んだのかを想像しながら鑑賞してみてください。

鳥をはじめ身近な生きものをモチーフにする脇田和の版画作品から、雨が似合うカタツムリの作品を紹介いたします。一点は二十代前半のモノクロのリトグラフの作品、そして、もう1点はさらに四十年ほどを経た、鮮やかな色彩のシルクスクリーンの作品です。色彩や画面構成から脇田作品の画業の深まりをお楽しみください。

彫刻分野では、引き続き具象・抽象彫刻を紹介いたします。堀義雄《女(へ)》は、女性の様々な曲面や量塊を構成することで、女性的な美を強調し女性の持つ本能的な妖しさを表現することを目指した作品の一つです。ねじれた形が組み合う有機的な造形が目を引きま

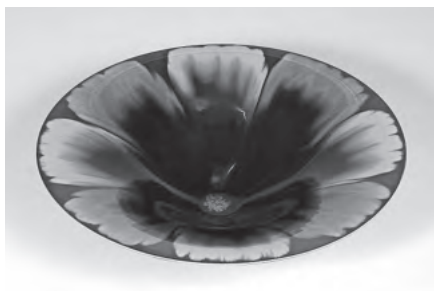


東典男《クリムソン色の上に》

令和4年度の新収蔵品

No	分類	作品名	作者名	員数	制作年	寄附者
1	陶磁	彩釉鉢	三代徳田八十吉	1点	昭和58（1983）年	手取屋岳夫
2	陶磁	九谷赤絵蓋物「風薫る」	福島武山	1合	平成29（2017）年	福島武山
3	漆工	竹林図屏風	寺井直次	2曲1隻	昭和26（1951）年	川本英明
4	漆工	平文おしどり八角箱	大場松魚	1合	昭和38（1963）年	藤野幸子
5	油彩画	アドレーション・ サンタマリア・アスンタ	藤森兼明	1面	令和3（2021）年	藤森兼明
6	日本画	不動明王二童子像	坂根克介	1点	令和3（2021）年	坂根克介
7	彫塑	サルと魚	長谷川八十	1点	昭和50（1975）年	中川理久美
8	彫塑	女の首	得能節朗	1点	昭和26（1951）年	得能節朗
9	彫塑	豊穡の祈り	得能節朗	1点	昭和60（1985）年	得能節朗

令和4年度新収蔵品17点 収蔵品総計（令和5年4月末現在） 4,053点



1. 三代徳田八十吉《彩釉鉢》



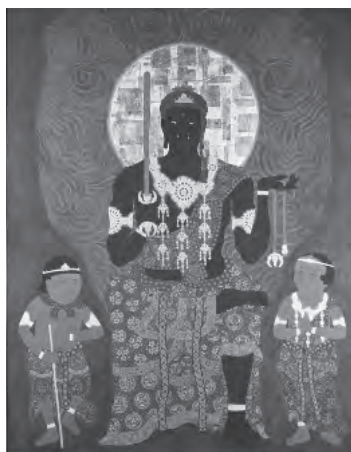
2. 福島武山《九谷赤絵蓋物「風薫る」》



4. 大場松魚《平文おしどり八角箱》



5. 藤森兼明
《アドレーション・サンタマリア・アスンタ》



6. 坂根克介《不動明王二童子像》



8. 得能節朗《女の首》

7月29日(土) 美術館にVRシアターがオープン!

CGやVR(仮想現実)という最先端技術を活用し、国宝などの名品を超高精細の8K画面で紹介します。

場所…2階コレクション展示エリア内

※コレクション展の観覧券が必要です。

上映日…毎日上映(コレクション展示エリアの休館日を除く)

上映作品

①「美を紡ぐ、そして文化を育む」

―加賀前田家から現代へ、そして未来へ―(約18分)

金沢の文化の礎を築いた加賀藩前田家の時代から、国立工芸館の移転や金沢城の復元など、現代に至るまでの石川県の美術・工芸文化の継承と発展の歴史をご紹介します。

②「色絵雉香炉 ―悠久の時を超えて―」(約15分)

約三〇〇年離ればなれだった国宝《色絵雉香炉》と重要文化財《色絵雌雉香炉》が、つがいで県立美術館に展示されるようになるまでの物語と、江戸初期の陶芸家・野々村仁清の最高傑作といわれる作品の魅力に迫ります。

※上映スケジュールは決まり次第、ウェブサイトでお知らせします。



VRシアターイメージ



国宝《色絵雉香炉》(右)
重要文化財《色絵雌雉香炉》(左)

第7・8・9展示室 第76回 示現会金沢展

7月6日(木)～10日(月) 会期中無休

◇入場無料

◇連絡先 一般社団法人示現会石川県支部長

松本 隆

電話…090-1317-4428

一般社団法人示現会は、具象絵画を目指して昭和二十二年に石川虎二らにより創立しました。その後、大内田茂二、楢原健三の両名の芸術院会員を輩出しています。

今年の金沢展では、今春に国立新美術館で展示された81点の作品を展示します。

今年もできるだけ多くの方に高覧頂きますよう案内させていただきます。

第7・8・9展示室 第33回 石川県水墨画協会公募展

6月30日(金)～7月3日(月) 会期中無休

◇入場無料

◇連絡先 石川県水墨画協会事務局長 村田栄子

電話…076-291-4688

石川県水墨画協会公募展も今年度で第三十三回展を開催することとなりました。公募展は過去の制作活動の実績に照らし承認された会員の研鑽成果発表の場であると同時に広く県内から一般公募し、厳正な審査で選ばれた入選作を展示しております。

「墨に五彩あり」といいます。墨の濃淡や潤渇、ほかして立体感や色彩感を表現するよう工夫をしている会員及び一般公募の意欲的な作品をぜひ鑑賞いただき水墨画の魅力をたっぷり楽しみながら作品をご覧ください。

多くの方々のご来場をお待ちしております。

夏の予定は美術館！

＜コレクシヨン展＞みんなで楽しむ美術館 よく見てみつけ！＜関連行事＞

本展では、「探す」「内側を見る」「くらべる」という鑑賞のコツをご紹介します。鑑賞の基本である「よく見る」楽しさを体験してみましよう！なお、本展は七月二十九日（土）～九月十一日（月）に開催予定。詳細は次号（第四七八号）に掲載予定です。

みんなでつくろう！彫刻みつけマップ

＊コレクシヨン展「みんなで楽しむ美術館 よく見てみつけ！」を鑑賞後、野外彫刻が楽しめる当館周辺をお散歩しながら、彫刻や気になるものをポラロイド式カメラ（チェキ）で写真を撮ります。その後、撮影したみなさんの写真を貼って、一枚のオリジナルマップをつくりまします。

日時…8月6日（日） 10時～12時

対象…小学生以上 ＊大人の方も大歓迎！

＊小学生は必ず保護者の方と一緒にご参加ください。

定員…15組（一組につきカメラは一台）

＊要事前申込・先着順、一組最大4名まで。

料金…無料

申込…インターネットにて受付。

詳細は当館ウェブサイトで七月初めに公開予定。

＊会期中、わくわくわーくしーとや「＃野外彫刻みつけ！」で写真投稿という企画も実施予定です。詳細は後日、公式ウェブサイトにて公開予定です。お楽しみに！

ワークシヨップ

美術館でスケッチGO！

＊磁気式お絵かきボードを使って、コレクシヨン展示室の作品をスケッチします。大人も子どもも親子でも！できあがったスケッチは、記念撮影できます！

7月の行事予定

日時…8月27日（日） 10時～11時30分（所要時間…約30分）

※申込不要、時間内は随時受付しています。

場所…2階コレクシヨン展示室付近

対象…どなたでも

料金…要コレクシヨン展観覧料（参加者は団体料金、高校生以下無料）

■土曜講座

13時30分～15時 美術館講義室 無料

8日（土）

「加賀藩歴代藩主の甲冑・陣羽織と加賀象嵌簞」

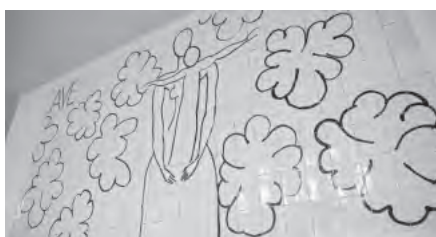
学芸専門員 村上 尚子

寺川 和子（学芸主幹兼学芸第二課長）

東京都美術館で八月二十日まで開催中のマティス展において、彼が設計したロザリオ礼拝堂の高精細映像を、巨大スクリーンで上映しています。十五年前に現地を訪れましたが、外は真冬の曇り空であつても室内は穏やかな光に満たされ、マティスが生涯追い求めた生きる歓びとは、こうであつたかと思える空間でした。

コロナ禍を経て、質感まで再現された映像を目にする機会が増えました。しかしながら、それらが素晴らしければなおのこと、直に作品に触れる機会は貴重であると感じます。

「無言の優品から雄弁きわまりない光明の教えを温かく授けられる」という松田権六の言葉が、近年さらに実感を持つて胸に響いています。



ロザリオ礼拝堂 室内 ©NHK

《残影(棚)》 ざんえい たな

幅 182.3 奥行45.7 高86.7cm
昭和34年(1959) 第2回新日展

佐治賢使 さじただし

大正3(1914)～平成11年(1999)



本作は三部作《追想》《残影(棚)》《都会》のひとつで、佐治が波に乗っている時期のひとつと言われた時に制作された作品です。他の二作がパネルや屏風という平面なのに対し、この《残影》は横に長い大きな棚の形状の作品となっています。

パノラマのように広がる棚の扉には、月の光なのか、ほのかに差し込むようにも降り注ぐように見える形で青貝が蒔かれ、そこに星や月、湖に影を映す山、動物・魚・鳥・植物とともに家も配され、月と対称の場所には暗がりの中に虹も描かれています。描かれているそれぞれのモチーフは抽象化し表現されていますが、佐治が学生時代に漆だけでなくデザインの勉強にも力を入れていたこともあり、漆の技術はもちろん、漆黒の中の色彩の使い方・かたちの捉え方などの多才な表現が深く印象に残る作品です。

佐治は岐阜県生まれ。本名は正。昭和十三年東京美術学校工芸科漆工部を主席で卒業。この後研究科を経て石川県立工業学校の教員として金沢に移住します。三年ほど勤務したのち、制作に専念するため昭和十七年に退職、本格的に作家活動に入ります。東京美術学校在学中の昭和十一年文展初入選を果たしており、以後新文展、日展に入選・受賞を重ねます。三十五年芸術院賞受賞、芸術院会員となり、平成七年文化勲章受章。独自の造形感覚による清新かつ現代的な作風を築きました。

本作は第5展示室「四季の移ろいⅢ」で展示中です。会期は七月二十三日(日)まで。ぜひご覧ください。

次回の展覧会

令和5年7月29日(土)
～9月11日(月)
会期中無休

前田育徳会 尊経閣文庫分館		第2展示室	
前田利為の コレクション		古九谷とその展開	
第5展示室	第3展示室	第4展示室	第6展示室
四季の移ろいⅣ 【工芸】	近代の木版画 【近現代版画】	優品選 【近現代絵画・彫刻】	みんなで楽しむ美術館 よく見てみつけ！ 【近現代絵画・彫刻・工芸】

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 370円(290円)

大学生 290円(230円)

高校生以下 無料

※()内は団体料金

7月3日は第1月曜日より

コレクション展示室無料の日

開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後6:00

7月の休館日は

24日(月)～27日(木)

「石川県立美術館だより」に広告を掲載してPRしませんか？

広報紙広告ならではの
メリット》》》》

地域に根ざした
情報発信

石川県での
知名度向上

自治体発行の
信頼度の高い
広報媒体

他エリア自治体広告もお任せください！
092-716-1401

株式会社
ジチタイアド

福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG 薬院ビル7F 財源確保

※株式会社ホープの広告事業は、2021/12/1付で「株式会社ジチタイアド」に分社化しております。

石川県立美術館だより
第477号(毎月発行)
2023年7月1日発行

〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL <https://www.ishibi.pref.shikawa.jp/>

石川県立美術館は電源立地地域対策交付金を活用して運営しています。